

積小為大 (せきしょうだい)

～一日一日を大切に、積み重ねていく一年にしよう～

笑いあり、涙ありの体育祭

2021→



またもや緊急事態宣言。思えば、5月の「熊野のつどい」のときもそうでした。「早くいつも通りになってほしい。」多くの人がそう思っているに違いはありません。今年の体育祭は無観客であり、コロナ対策をしながらの開催になりました。

初めは、リーダーに誰になるのかも手探りの状態。3年生の考えたダンスはリリリで、「やってみたい」より恥ずかしい。競技のメンバー決めも1時間の中では決めきれず難航。積小為大は結構大変。タイヤにうまく乗れず、落ちてしまう人もいました…。そして、味方をしてくれると思っていた天気ですらも機嫌を損ねてしまったのか、本番が雨で延期になってしまいました。

そして、迎えた本番…。予行での結果とは違う展開に見る方もドキドキしました。みんなでジャンプでは、「いける、いける!!」「がんばれば、できるじゃん。」という前向きな声が自然と出ていました。さらに健闘をたたえ合うかのように起こった拍手が、みなさんの“つながり”を表しているように思いました。やっぱり「体験」してみないとわからないことばかりです。やってみれば、ダンスもすぐに覚えて、リリリで楽しそうでした。長縄も、どんどん上達していました。積小為大を通して、いつのまにか3クラスとも「あーだ、こーだ」と言い合いができるクラスになっていました。

体育祭のスローガンである「全集中～全員参加・全員感動～」の中に、「誰一人取り残さず楽しい体育祭にする」という3年生のメッセージを感じました。「94人で1学年だ。みんながここにいる、いいんだよ。」そんな風に思える学年をつかってほしいものです。

最後に、赤組団に習って、45秒でこの通信を書こうと挑戦しましたが、無理でした。(津留見 遼太)